



こども聖書アプリ



リーダー・ガイド



目次

ようこそ	1
世界のはじまり	2
さいしょの罪	5
さいしょのクリスマス	8
岩の上にたてた家	11
友だちをはこんで	14
すべてがおわった	17
からっぽのおはか	20
くもの中へ	23
カスタマイズ用レッスン	26
トレーニング	32

こども聖書アプリブック リーダー・ガイド日本語版
ISBN 978-1-63049-363-9
Copyright © 2018 by OneHope

聖書新改訳©2003 新日本聖書刊行会

ようこそ！ この冊子は、みなさんが神さまのみことばの真理を伝える際に、子どもたちにとって有意義な、かつ記憶に残る形で伝えられるようにと作られました。『こども聖書アプリ』とこの冊子のレッスンを使っていただければ、次のような内容が、わかりやすく伝えられることでしょう：

- ★ 神さまは子どもたちを深く、無条件に愛しておられるということ。
- ★ 神さまは、子どもたちを決して見捨てることのない、お父さんのような方であるということ。
- ★ 子どもたちは、それぞれが目的を持って創られた存在であり、それぞれに能力や才能が与えられているということ。
- ★ 子どもたちにはとても大きな価値があるということ。

このガイドには、『こども聖書アプリ』中の聖書の物語と併用していただけるように、8つのレッスンが含まれています。また、アプリ中の他の物語についても使っていただけるよう、カスタマイズ用のレッスンも含まれています。各レッスンはアプリ中の物語に準拠して作られており、それぞれの物語が日々の歩みの中で、自分自身にとってどんな意味を持つものなのかを、子どもたち自身が考え、見出せるよう励ます内容となっています。

子どもたちに神さまの愛を伝えてくださること、時間と労力を費やしてくださることに感謝いたします。



世界のはじまり

世界の創造 創世記1:1-2:4

テーマ：神さまが創られた私

目標：

この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのことがわかるようになります。

- 神さまが万物の造り主であること
- 人はみな、神のかたちに造られていること、神さまがお造りになったものの中で最も価値あるものであること。
- 神さまが人を目的を持ってお造りになったこと。私たちの目的は、神さまと人格的な関係の内にあるということ。

用意するもの：

- 「世界のはじまり」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（1-4ページ）を用意しましょう。
- クレヨン
- 紙



ようこそ：

(5分)

子どもたちを歓迎しましょう。名前を言い、自分について何か一つ、特別なことを言います。そして、お互いにとってお互いが、目に見えているよりはるかに、それ以上の存在なのだと説明します。私たちにはそれぞれに才能や興味、できることがあり、それによって、他の誰とも違う、唯一の存在となっているのです。次に、子どもたちにも、近くにいる子同士で自己紹介をしてもらい、同じく自分自身について何か一つ、特別なことを語り合ってもらいます。



神さまのさらに大きな物語：

神さまは私たち一人ひとりをご存じで、愛してくださっています。そして私たちにも、ご自分のことを知ってもらいたいと願っておられます。事実、神さまが人々を造られたのは、世界の始まりから、ご自分との人格的な関係を持って欲しいと思われたからです。神さまはそこで、私たちがご自身についてさらに多くのことを学べる方法を造られました。聖書です。聖書は、神さまから私たちへのメッセージです。聖書にはいろいろな物語が含まれていますが、それらは互いに組み合わせられてさらに大きな物語となっています。神さまの大きな物語です。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（1-4ページ）で「世界のはじまり」を見せます。

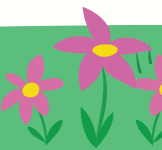


考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ この世界を造ったのは誰ですか。（答え：神さま）
- ★ 神さまが一日ごとに何をお造りになったか思い出せますか。（答え：①昼と夜を造られた。②水と空を分けた。③地と海を造られた。④太陽と月を造られた。⑤魚と鳥を造られた。⑥地に動物、そして人を造られた。⑦お休みになった）



- ★ 神さまがお造りになったもののうち、一番特別なものは何ですか。
(答え：人。男と女。)
- ★ 神さまが私たちをお造りになった方法として、どんなことが特別で他のものとは違ったのでしょうか。(答えの一例：私たちは神さまと他の人たちとを大切にするように造られた、人格的な関係を持つように造られた、自分たちも創造的な存在として、自分で考えたり選んだりできる存在として、学ぶことのできる存在として造られた、など)
- ★ 神さまが人を男と女とお造りになったのはなぜでしょうか。(答えの一例：神さまご自身と人格的な関係を持つようにさせるため)

子どもたちに、先ほどの歓迎の際の活動を思い出してもらいます。自分自身について何か一つ、特別なことを言えた子どもたちには手を上げてもらいます。次に、誰かの何か特別なことがわかった子どもたちにも、同様に手を上げてもらいます。

神さまがどれほど創造的な方が強調する。神さまは万物と一人ひとりの人間を、注意深く、かつ、他の誰とも違う存在としてお造りになりました。ここにいる一人ひとりも同じです。私たちはみんな、神に似た者として造られています。なんと素晴らしい価値、潜在能力、目的が与えられていることでしょうか。神さまはあなたをととても大切に思ってくださっているのです。そして、あなたにも、もっとご自分(神さまご自身)のことを知ってもらいたい、ご自分のことを大切に思ってもらいたいと願っておられるのです。

66 暗唱聖句：

神(上を指さす)

はお造りになった(拳に拳を重ねる)

すべてのものを(両手で虹を作る)

見られた(眉毛の上に片手を当てて見回す)。見よ。

それは非常に良かった(人差し指をスマイルを描くように動かす)。

創世記1:31

アクティビティ： (10分)

子どもたちに輪になって座ってもらいます。小さなボールを一つ、輪の中でランダムにパスします。ボールを受け取った子は何か一つ、自分は他の子とはここが違うと思っていることを言います。そして、誰か、まだ言っていない子にボールを回していきます。全員に順番が回るまで続けましょう。

工作： (オプション)

子どもたちに目を閉じてもらい、神さまが一日一日お造りになったものがどんなものだったか、想像してもらいます。神さまが、慌てることなく、それぞれのものを注意深く造られたことを強調します。次に、用意しておいた道具を使って、絵を描いてもらいます。世界の始まりがどんな感じに思っているか見せてもらいましょう。

テーマ： 神さまが創られた私

説明しましょう。今日も、周りを見渡してみれば、神さまのお造りになったものを、ありがたく見ることができます。そこには、自分自身の内にあるものも含まれます。自分のセルフ・イメージについて、子どもたちにさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- 神さまはあなたに、どんなことができるようにしてくださっていますか。
(様々な答えがあるでしょう)
- 何かできること、才能、能力などは、神さまからの贈り物です。与えられているその贈り物を見て、神さまがあなたのことをどのように思っているかと思えますか。(答えの一例：神さまはあなたのことをとても大切に思っておられます。だからこそ、あなたを造ってくださる時に、世界にたった一人の存在として、細かくデザインしてくださったのです)



みんなとつ ながろう：

子どもたちに伝えましょう。私たちは、他の人々も同じように自分の価値を認めることができるよう、助けてあげることができます。また、その人たちに、神さまが特別な才能と能力を与えておられることを知らせてあげることもできます。次に、考えてみましょう。周りの友だちや家族は、どんな特別なことができるでしょうか。また、子どもたちにたずねてみましょう。そういった特別な能力があることで、友だちや家族はどんな風に助かることでしょうか。さらに、他の人々の中にある特別な才能に気づき、それについて感謝を表してみるよう勧めます。

締めくくり：

子どもたちに再び思い出してもらいます。この場にいる一人ひとりを含む、全てのものをお造りになったのは、神さまです。また、人は誰でもみんな、神さまに似せて造られています。素晴らしい価値と目的が与えられてもいます。子どもたちに伝えましょう。神さまは、ご自分がお造りになった中でも最も大切なものを愛しておられ、心と心を持ちたいと願っておられます。その大切なものとは、他でもない、子どもたち自身です。

祈り： (2分)

「主よ、
全てのもので私たち一人ひとりを、ていねいに、目的を持って造ってくださり、ありがとうございます。その目的とは、あなたのことを知り、あなたを大切に思う人になるということです。私たちがこの目的に沿って成長していけるよう助けてください。
アーメン」

メモ





さいしょの罪

アダムとエバ 創世記3:1-24

テーマ：従順な心

目標：

この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのことがわかるようになります。

- 私たちが考え、語り、行うことのうち、神さまがお喜びにならないものはどんなことも罪であること。
- 神さまに従うということは、私たちが神さまに信頼し、神さまを愛していることを示すのに大切なあり方。
- 神さまは、ルールと命令をお定めになります。それは、私たちが愛し、大切にしてくださっているから。

用意するもの：

- 「さいしょの罪」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（5-8ページ）を用意しましょう。
- 赤いクレヨン
- 紙



ようこそ：

(5分)

子どもたちを歓迎しましょう。そして、この日、その場所に来る途中で、「止まれ」の標識や赤信号を見たという子がいれば手を上げてもらいます。また、この日、お母さん、お父さん、家族から何かルールを守るように言われたという子がいるか、聞いてみます。ルールや安全の標識は、私たちが助けるためのものであることを伝えましょう。それらは私たちを守ってくれるものだからです。



復習：

(5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- **神さまがお造りになったのは何でしたか。**（答え：全てのもの）
- **神さまがお造りになったものの中で、一番価値のあるものは何ですか。**（答え：人々、私たち）
- **私たちがそこまで価値があるというのはなぜでしょうか。**（答えの一例：神さまがご自分に似せて造ってくださったから。そしてとても大切に思ってくださいているから）



神さまのさらに大きな物語：

神さまは私たちを愛してくださっており、守りたいと思ってくださっています。いろいろなルールをお造りになったのも、私たちが安全に守るためです。ところが、最初の人たちはそれに従いませんでした。神さまに逆らってしまったのです。このため、神さまは人をとても愛してくださっていたにもかかわらず、両者は引き離されてしまったのです。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（5-8ページ）で「さいしょの罪」を見せます。





考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ アダムとエバが住んでいたきれいな園を造ったのは誰ですか。（答え：神さま）
- ★ 悪魔は蛇の姿でエバをだましにやって来ました。蛇はエバを惑わせて木の実を食べさせようとしたのですが、そのとき、エバに何と言いましたか。（答え：「神は、これらの木の実を食べてはならないと言ったのかい？ …… 死なないさ。神にはあの実を食べたくはないわけがあるからさ。君たちが神のようになってしまうからだよ。神の知っていることを、君たちも知ることになってしまうからさ」）
- ★ アダムとエバが命令に背いたということを、神さまはどのようにして知りましたか。（答え：二人が隠れて、自分たちは裸だと言ったから）
- ★ 神さまは蛇にどんな罰をお与えになりましたか。（答え：一生、地面をはって生きなければならない）
- ★ 神さまはエバにどんな罰をお与えになりましたか。（答え：子どもを産むことがとても痛いことになる）
- ★ 神さまはアダムにどんな罰をお与えになりましたか。（答え：食べ物を育てることがとても大変なことになる）

子どもたちに伝えましょう。神さまはアダムとエバのことをとても大切に思っておられました。食べ物を与え、仕事を与え、美しい園を住みかとしてお与えになりました。ところが、アダムとエバは最初の罪を犯してしまいました。禁じられていた木から実を取って食べることで、神さまに背いてしまったのです。説明しましょう。私たちが考え、語り、行うことのうち、神さまがお喜びにならないもの、すなわち神さまに背くことは、どんなことも罪なのです。

子どもたちに説明しましょう。神さまは、私たちが知っているよりもはるかに多くのことをご存じです。私たちが造ってくださったのは神さまですから、私たちにとって何が最善かも知っておられます。ルールもまた、私たちがとても愛してくださっているからこそ、私たちを守るために造ってくださっているのです。そのルールに従うことこそ、神さまを信頼しているということを示せる、最も大切な方法の一つです。私たちには、神さまに従うという道を選ぶことができるのです。

“ 暗唱聖句：

そこで神である主は（天を指すように上を指さす）、人をエデンの園から追い出されたので（厳しい表情をしながら、人差し指で遠くを指さす）、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった（腰を曲げ、土を耕すまねをする）。創世記3:23



アクティビテ

ィー：

(10分)

グループの全員でこの物語を寸劇にしてみましょう。子どもたちに、神さま、アダム、エバ、蛇、それに、話には出てこないながらも周囲で見守っている動物たちの役を割り当てます。そして、アダムとエバが他にどんな、違う応答の仕方ができたかを子どもたちに聞きます。（例えば、蛇に対してはどんなことが言えたでしょうか。禁じられた木の実を食べる代わりに、どんなことができたでしょうか）

工作：

(オプション)

それぞれの子どもに紙と赤いクレヨンを渡します。そこに絵でも文字でもいいですから、何かを書いてもらいます。何かしるしだけでもかまいません。次に、それを消してもらいます。ここで伝えます。私たちの選ぶことは、紙の上のその赤いしるしのようなものです。神さまから隠れようとしたアダムとエバのように、私たちは、何をしてしまっても、既に選んでしまったことを消し去ったり、やり直すことはできません。罪を赦せるのは神さまだけなのです。



♥ テーマ： 従順な心

子どもたちに説明しましょう。神さまはルールや命令を与え、また、私たちに教えてくれる人々を与えてくださいます。それは神さまが素晴らしい方で、私たちが愛してくださっているからです。次に、「従う」ということについてさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- 神さまがあなたを守ってくださる（危険な）ものとしては、どんなものが考えられますか。（様々な答えがあるでしょう）
- そのように考えると、神さまはあなたのことを、どのように思ってくださっているでしょうか。（答えの一例：神さまは、私たちが大切に思ってくださっていて、だからこそ、守りたいと思ってくださっている）
- 神さまに従うということを選ぶと、神さまに対してのどんな気持ちを示すことになりますか。（答えの一例：私たちが、神さまを大切に思い、信頼しているということ、また、神さまが素晴らしい方、正しい方であることを知っている、ということを示せる）

👫 みんなとつ ながろう：

子どもたちに、自分たちの世話をしてくれている人たちのことを考えてもらいます。自分たちが守られるように、どんなルールを定めてくれているのでしょうか。それらの人々の愛情と守りに感謝を表すための方法についても、何か具体的なことを考えてもらいましょう。

🤝 締めくくり：

子どもたちに伝えましょう。神さまは私たちが愛してくださっており、私たちにご自分のルールに従って欲しいと願っておられます。一方、私たちは、罪を犯してしまうと、自分の心を神さまから隠してしまいます。そして、それによって、神さまから離れてしまうのです。

子どもたちに伝えましょう。神さまは私たちのことを常に愛してくださっています。罪を犯してしまい、従順に従ってはいない時でさえ変わりません。助けてくださいとお願いすれば、見捨てることなく赦してくださるのです。

✝ 祈り： (2分)

「主よ、
私たちが愛してくださり、ありがとうございます。そして、その愛がとて大きいからこそ、私たちを守ろうとルールを定めてくださり、ありがとうございます。私たちは、心がふらふらして、悪いことをしてしまいそうになります。しかし、どうか強くいられるように助けてください。むしろ、あなたに従うことをいつも選ぶことができますように。
アーメン」

メモ



さいしょのクリスマス

イエスの誕生 ルカ1:26-38、2:1-20、マタイ1:18-25

テーマ：希望がある心

目標：

この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのことがわかるようになります。

- 最初のクリスマスとは、イエスさまがお生まれになった夜だったということ。
- イエスさまが神のひとり子であること。
- イエスさまが来られたのは、私たちに希望と平和をもたらすためであったということ。

用意するもの：

- 「さいしょのクリスマス」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（9-16ページ）を用意しましょう。
- ボール（投げやすいもの）
- 紙
- 色の塗れるもの（クレヨン、色鉛筆など）



ようこそ：

(5分)

子どもたちを歓迎しましょう。目を閉じてもらい、誰か大好きな人と一緒に過ごした時のことを考えてもらいます。誰と一緒にだったでしょうか。何をしましたでしょうか。どんな風を感じたでしょうか。そして、目を開けてもらいます。ここで伝えましょう。贈り物というのは、必ずしも物とは限りません。大好きな人々と過ごす時もまた、最高の贈り物の一つです。さらに伝えます。今日は神さまが、私たちが神さまのことを知るための方法、神さまと共にいるための方法を、どのように造ってくださったかを学びます。



復習：

(5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- **罪とは何ですか。**（私たちが語り、考え、行うことのうち、神さまがお喜びにならないものは、どんなことも罪です）
- **アダムとエバはどのように罪を犯しましたか。**（禁じられていた木から実を取って食べた）
- **神さまの言いつけを守らないようにそそのかしたのは誰でしたか。**（蛇の姿をした悪魔）
- **二人はその後、神さまから隠れました。なぜですか。**（恥ずかしかったから）



神さまのさらに大きな物語：

アダムとエバが神さまに逆らったとき、この世に罪が入りました。罪は私たちを神さまから引き離します。しかし、神さまは、私たちを深く愛してくださっているがゆえに、私たちの罪の問題を解決する方法を造ってくださいました。御子イエス・キリストを送り、私たちの救い主としてくださったのです。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（9-12ページ）で「さいしょのクリスマス」を見せます。



考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。



- ★ 天使のガブリエルはマリヤに、子どもが生まれることを告げました。マリヤは結婚前だったのに、どのようにして子どもが生まれることになりましたか。（答え：神さまが赤ちゃんをお与えになった。赤ちゃんは神のひとり子だった）
- ★ 天使はヨセフにも現れ、赤ちゃんにつけるべき名前を告げました。どんな名前でしたか。（答え：イエス）
- ★ 天使は、羊飼いはどんな知らせを告げましたか。（答え：みなさんの救い主がお生まれになりました。この方は、ベツレヘムの町にいて、干し草のベッドで寝ています）
- ★ 子どもたちに説明しましょう。救い主とは、他の人が困っている時に、助け出したり救い出したりする人です。天使は羊飼いに、救い主が生まれたと告げましたが、それはなぜでしたか。（答え：神さまはご自分のひとり子イエスさまを、私たちのための救い主として送ってくださった。イエスさまは私たちの罪の問題を解決するために来られた）
- ★ イエスさまが生まれることを、羊飼いはどのようにして知りましたか。（答え：天使が空に現れ、この素晴らしい知らせを伝えた）
- ★ イエスさまをその目で見た羊飼いたちは、何をしましたか。（答え：大喜びで、起こったことを街中にふれて回り、神さまをほめたたえた）

子どもたちに思い起こしてもらいましょう。生まれたばかりのイエスさまは、干し草のベッドに寝かされていました。これは普通の赤ちゃんの誕生ではありませんでした。天使は言いました。「良い知らせがありますよ。皆さんの救い主がお生まれになりました」ここで説明しましょう。その良い知らせとは、神さまが私たちを助けてくださるということです。イエスさまを私たちの救い主として送り、私たちに希望を与えてくださったのです。救い主とは、他の人々を危険や死から救う人のことです。

子どもたちに伝えましょう。罪は、私たちでは解決できない問題を生み出します。私たちは間違ったことをしてしまい、神さまからの罰を受けるに値します。そのため、私たちは神さまから引き離されてしまい、それを私たちは自分で修復することができません。しかし、感謝なことに、神さまは私たちを愛してくださるがゆえに、解決を与えてくださいました。イエスさまを私たちの救い主として送ってくださったのです。イエスさまこそ、私たちが罪から救うことができるからです。イエスさまは既に、私たちには絶対にできないことをしてくださったのです。

66 暗唱聖句：

きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主が（両手を頭の上でしっかりと握りしめる）お生まれになりました（両腕を組み、赤ちゃんをあやすように左右に揺らす）。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって（両腕で、赤ちゃんを毛布にくるむような動作をする）飼葉おけに寝ておられる（赤ちゃんを飼葉おけに寝かせるような動作をする）みどりごを見つけます（両腕を組み、左右に揺らす）。これが、あなたがたのためのしるしです（空を見上げ、指さす）。

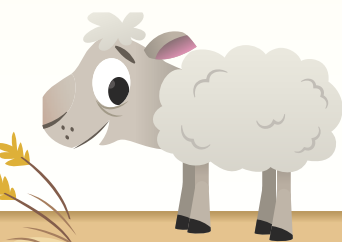
ルカ2:11-12

アクティビティ： イー： (10分)

このアクティビティを始める前に、部屋のどこか見えるところに、ボールを置いておきます。

子どもたちに円になった座ってもらいます。まずは、一緒にゲームをすると告げ、ルールを説明します。誰かにボールをパスすること、受け取った子は、今日の聖書物語で何か覚えていることを話し、次の人にボールをパスすること、話ができるのはボールを持っている人だけ、というルールです。次に、座ったまま数秒間、無言で過ごします。そして再び説明します。問題が一つある。ボールが無い、と。

しばらくまた無言で過ごし、子どもたちにどうすればいいか聞きます。ゲームに使えるようなボールが見える人はいますかと聞き、いれば静かに手を挙げ、挙げたままにしておいてもらいます。そして、黙ったままそのボールを指さしてもらい、誰か一人を指名して取ってきてもらいます。そしてようやくゲームを開始、子どもたち全員に順番がまわるまで続けます。



子どもたちに、ゲームに参加してくれたこと、ボールを見つけるのを手伝ってくれたことを感謝します。そして思い起こしてもらいます。神さまにも、私たちに必要な助けを与えてくださっていることについて、大いに感謝すべきなのです。

工作： (オプション)

紙を半分に折ってカードのようにしてもらいます。外側には、きれいなプレゼントの絵を描かせ、内側には、大きく鮮やかな色で「イエスさま」と書かせます。そして、家に持って帰って、家族にあげるよう勧めます。そしてさらに、自分が、誰とも分かち合える最高の贈り物を持っていることを語るようにも勧めます。そう、イエスさまという贈り物です。

♥ テーマ： 希望がある心

説明しましょう。イエスさまは私たちに希望を与えてくださいます。イエスさまこそ私たちの希望です。私たちの罪の問題を解決して下さるからです。イエスさまは私たちが受けるべき罰を負ってくださいました。身に覚えがないことなのに、私たちの罪の代償を払ってくださったのです。イエスさまが与えてくださるこの希望が無ければ、私たちは神さまから引き離されたままで、この人生に向き合わなければならないのです。ここで、子どもたちにさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- **希望が大切なのはなぜですか。**（答えの一例：希望とは、自分が罪の中で行き詰まってはいないという意味だから。神さまから引き離されたままでいる必要がないことを意味するから）
- **あなた自身にとって、救い主が必要なのはなぜですか。**（答えの一例：自分自身では罪の問題を解決することができないから。できるのは神さまだけ）
- **神さまは、私たちを助けるために、イエスさまを送ってくださいました。このことから、神さまの、私たちに対するどんな気持ちがわかるでしょうか。**（答えの一例：ご自分のひとり子であるイエスさまを、私たちを助けるために送ってくださった。それほどまでに私たちを大切に思っている）

👫 みんなとつ ながろう：

子どもたちに説明しましょう。イエスさまは単に偉大なことをした良い人というだけではありません。神の唯一のひとり子です。私たちの救い主であり、私たちを助けるために神さまから送られた贈り物です。子どもたちに聞いてみましょう。この贈り物であるイエスさまを、誰と分かち合うことができるでしょうか。イエスさまの誕生というこの良い知らせは、どうすれば他の人たちに伝えることができるでしょうか。

🤝 締めくくり：

子どもたちに伝えましょう。罪は私たちが自分では解決できない問題です。でも、神さまは、私たちを深く愛して下さり、救いの道を作ってくださいました。私たちの救い主として、イエスさまを送ってくださったのです。最初のクリスマスの良い知らせとは、希望という、神さまの贈り物が届けられたということです。イエスさまは、この贈り物だったのです。

✝ 祈り： (2分)

「主よ、

あなたの御子イエスさまという贈り物を送ってくださって、ありがとうございます。私たちの罪の問題を解決する方法を作ってください。ありがとうございます。希望という、あなたからのこの素晴らしい贈り物を、他の人々と分かち合えるよう助けてください。それによって、他の人々もあなたを知ることができるよう、助けてください。

アーメン」

メモ





岩の上にたてた家

山上の説教

マタイ4:23-7:29 ヨハネ18:36-37

テーマ：信頼する心

目標：

この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのことがわかるようになります。

- 神さまは、信頼に価する方であり、私たちに必要なものを与えてくださる方。
- 神さまに信頼するということは、従うということ。
- 神さまには、祈りの中で語りかけることができます方。

用意するもの：

- 「岩の上にたてた家」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（13-16ページ）を用意しましょう。
- 紙
- はさみ
- セロハンテープ、ホッチキス、または糊
- 色の塗れるもの、かつ／あるいは、シール
- あらかじめ作っておいた紙の王冠



ようこそ：
(5分)

あらかじめ王冠を作っておき、子どもたちを迎える際には、それをかぶって迎えます。

子どもたちを歓迎し、頭にかぶった王冠に注目してもらいます。王冠をかぶっているのは普通は誰だか知っているか、聞いてみます。何人かを指名し、答えてもらいましょう（答えは様々でしょうが、王族、王様や女王様など）。ここで説明しましょう。イエスさまは誰よりも一番偉い王さまです。神のひとり子です。イエスさまに従うことを選んだ人々は、イエスさまの国の一員でもあるのです。



復習：
(5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- 最初のクリスマスには、どんなことがありましたか。（答え：イエスさまがお生まれになった）
- イエスさまの誕生が良い知らせだというのはなぜですか。（答え：神さまがイエスさまを送ってくださったのは、私たちの救い主にしてくださるためだから。イエスさまは私たちに希望を与えるために来てくださったから）
- イエスさまは私たちに、どのように希望を与えてくださるでしょうか。（答え：イエスさまは、私たちの罪の問題を解決するために来てくださった）



神さまのさらに大きな物語：

イエスさまは地上におられる間、神さまを大切にするにはどうすればいいか、お互いを大切にするにはどうすればいいかを教えてくださいました。また、神さまが面倒を見てくださるということを教えてくださいました。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（13-16ページ）で「岩の上にたてた家」を見せます。



考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ 王さまとは誰のことですか。(答え：イエスさま)
- ★ イエスさまの国に入れるのはどんな人たちですか。(答え：他の誰よりも何よりも、神さまに従い、そのルールを守り、神さまを信頼することを選ぶ人々)
- ★ イエスさまは例えばどんなことを教えましたか。(答え：神さまは、私たちが心配するのを望んではおられない。必要なものを与えてくださる。神さまに信頼し、従いなさい)
- ★ イエスさまが語った物語の中で、砂の上に建てられた家はどうなりましたか。(答え：倒れてしまった)
- ★ 岩の上に建てられた家はどうなりましたか。(答え：倒れなかった)

子どもたちに伝えましょう。イエスさまは物語の中で、私たちも、岩の上に家を建てた人のようになれると言いました。私たちは、イエスさまの教えを実行に移すことで、それができます。また、神さまは私たちの心を、ご自分の心のようにしたいと願っておられます。私たちがイエスさまを信頼するとき、また、自分の心や選択や行動の中でイエスさまの教えを実行に移すとき、私たちの心は神さまの心のようにしていただけるのです。イエスさまは私たちの心を変えることができます。私たちが神の家族に迎え入れることができます。ここでさらに伝えましょう。イエスさまを大切にしていって行くとき、私たちはイエスさまの国の一員になります。子どもたちはまさしく、王家に連なる存在です。大切に価値ある存在として、神さまが心から愛してくださっているからです。

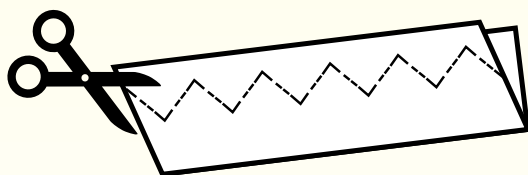
暗唱聖句：

だから、わたしのこれらのことばを聞いて (片手を耳に) それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた (頭の上で両手を組んで屋根のようにする) 賢い人に (人差し指で頭をコツコツ叩く) 比べることができます。マタイ7:24

アクティビティ：

(10分)

子どもたちを部屋の真ん中に集めて説明します。部屋の片側は神の家族、神の国を表し、反対側は、イエスさまを大切にしない、イエスさまに従わないことを選ぶ人々を表しています。そして、様々な行いを具体的に描写し、子どもたちに、その描写に一番ふさわしい空間に走るように言います。様々な行いとは、例えば、他の人たちを大切にせず、本当のことを言う、盗む、聖書を読む、誰かをいじめる、などが含まれます。



工作：

(オプション)

子どもたち一人ひとりに、紙を一枚ずつ配ります。これを半分に切ってもらいますが、切り口はジグザグに切ってもらいます(必要ならば、このステップは、レッスン前に済ませておくのもいいでしょう)。次に、先にかぶっていた王冠を見せます。この王冠をサンプルにして、同じように作ってもらいます。そして、ここで伝えます。王冠は家に持ち帰ってもらい、自分がどれほど大切な存在かを思い出してもらうためのものです。子どもたちはみな、神さまに愛され、大切に思われているのです。イエスさまのおかげで、私たちは神さまを大切にし、神さまに従うことができます。そして、神さまの国の一員になることができます。



♥ テーマ： 信頼する心

子どもたちに伝えましょう。イエスさまは言いました。神さまは私たちに不安を抱いて欲しくないと思っておられます。ご自分を信頼して欲しいと思っておられるのです。神さまに信頼できる方法の一つは、神さまに語りかけるということです。それは、祈りと呼ばれています。さらに伝えましょう。神さまには、いつ語りかけても、何を語りかけてもいいのです。さらに考えてもらいましょう。次のように聞きます。

- お祈りの中で神さまに語りかけるのに、ふさわしい時はいつですか。
(答え：いつでも)
- 神さまに信頼したほうがいいのはなぜですか。(答えの一例：神さまは私たち一人ひとりを造ってくださり、大切にしてくださり、価値を認めてくださっているから)
- 神さまを信頼していることが示せる方法として、具体的なことが挙げられますか。
(答えの一例：祈れる、ルールが守れる、イエスさまの教えと生き方に従える)

👥 みんなとつ ながろう：

自分と関わりのある人々について考えてもらいましょう。信頼できるのは誰でしょうか。それはなぜでしょうか。子どもたちに伝えましょう。真の信頼とは、そうしたくない時であっても相手に耳を傾けて従うということです。両親や先生など、誰かに従いたくなかった時のことを考えてもらい、子どもたちに聞きます。自分が従いたくないと思うことで、相手の人にどんな思いをさせてしまったのでしょうか。今後、同じような状況になったとき、前とは違う応え方ができるのでしょうか。具体的にはどんな応答でしょうか。

🤝 締めくくり：

子どもたちに伝えましょう。私たちが造ってくださったのは神さまです。ですから、神さまは、私たちが自分のことを知っている以上に私たちのことを知ってくださっています。素晴らしいことは、この関係は一方的なものではないということです。私たちもまた、神さまのことをよりよく知ることができるのです。神さまは私たちに、ご自分のことをもっと知ってもらいたいと思っておられます。ここでさらに伝えましょう。私たちは、神さまの言葉である聖書を読むことで、また、『こども聖書アプリ』を使うことで、神さまのことをもっと知ることができます。説明しましょう。私たちはまた、必要な時にはいつでも、神さまに語りかけ、助けを求めることができるのです。これを祈りといいます。

✝ 祈り： (2分)

「主よ、
あなたの御子イエスさまを送ってくださり、私たちの希望、助けとしてくださって、ありがとうございます。私たちは心配もします。怖くもなります。そんな時には、あなたを信頼することを選ぶように思い出させてください。
アーメン」

メモ



友だちをはこんで

中風の人を治すイエスさま ルカ5:17-26

テーマ：親切な心

目標：この物語のレッスンの終わりには：

- 子どもたちは、神さまが病気の人を治すことができるということがわかります。
- 神さまが罪を赦すことができるということがわかります。
- イエスさまが神さまだということを、認めることができるようになります。
- 信仰というものがどんなものか、理解できるようになります。

用意するもの：

- 「友だちをはこんで」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（17-20ページ）を用意しましょう。
- 紙
- 色の塗れるもの（クレヨン、色鉛筆など）



ようこそ：

(5分)

この日は、子どもたちを歓迎するのに、いつもと少し違った形でしたいと伝えます。まず、「今日、会えてとても嬉しいのは……」と言い、名前の代わりに、その子がどんな様子かを言います。「青い服を着ている子」や「髪の毛が短くて茶色の子」のような形です。これを、全員の子が取り上げられるまで行います。



復習：

(5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- **本当の王さまとは誰ですか。**（答え：イエスさま）
- **イエスさまが教えたことには、例えばどんなことがありますか。**（答えの一例：神さまは私たちに不安にならないで欲しいと思っておられる。必要なものを与えてくださる。神さまを第一にしよう。神さまに信頼して、そのルールに従おう）
- **私たちはどのようにして、神さまに語りかけることができるでしょうか。**（答え：どこでもどんな時にも、祈りを通じて）



神さまのさらに大きな物語：

イエスさまは、地上におられる間、たくさんの奇跡をなさいました。そこには、病気の人を治すことと罪を赦すこと含まれます。イエスさまも、神さまだけができることをなさいました。それによって人々に、ご自分が神さまであることをお示しになったのです。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（17-20ページ）で「友だちをはこんで」を見せます。



考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ **歩けない人に、イエスさまは何とおっしゃいましたか。**（答え：「あなたの罪は赦されています」）
- ★ **ユダヤの教えの先生たちが嫌な気持ちになったのはなぜですか。**（答え：「罪を赦せるのは神さまだけぞ」とつぶやいた）
- ★ **歩けなかった人にはどんなことが起こりましたか。**（答え：イエスさまが罪を赦し、体を治した。すると歩けるようになった）



- ★ イエスさまの言葉によれば、イエスさまには誰の力があつたのですか。
(答え：神さまの力)
- ★ イエスさまはそのことをどのようにしてお示しになりましたか。
(答え：歩けなかった人の罪を赦し、体を治すことによって)

子どもたちに、今日の特別な歓迎のされ方を思い出してもらいます。名前を使わなかったところに注目してもらいましょう。代わりに、一人ひとりの様子を言い表しました。それでも、誰のことを歓迎しているかははっきりとわかりました。それは、何に注目すべきかがわかっていたからです。ここで伝えましょう。イエスさまも、自分は神だと言っただけではありませんでした。それを具体的にお示しになったのです。罪を赦し、(歩けなかった人を治すなどの) 奇跡を行いました。神さまでしかできないことをなさったのです。

暗唱聖句： 彼らの信仰を見て (両手を目に)、イエスは (天を指さして) 「友よ (子どもに語りかけるように、腰を曲げて手を地面に近く伸ばしながら)。あなたの罪は赦されました (両手を両側に伸ばして)」 と言われた (叫ぶように、口の周りに手を)。ルカ5:20

アクティビティ： イー： (10分)

子どもたちにみんな立ってもらいます。そして、名前を使わず様子の描写だけで、座るか立ったままでの指示を与えます。例えば、次のような形です：

- ・ 縞模様の服を着ていたら座って。
- ・ 兄弟か姉妹がいる人は立ったままで。
- ・ 青い物を身につけている人は座って。

これを、いろいろな描写を使って何度か繰り返します。そして、誰かがどんな人かを描写するのは、名前で呼ぶよりもはるかに難しいことを強調して、ゲームを終わります。描写したり表現したりするのは、はるかに難しいことなのです。子どもたちに思い起こさせましょう。イエスさまはそのどちらをもなさいました。自分に神さまの力があるということ、ただ言葉で言うだけではなく、その力を具体的に示すということもなさったのです。

工作： (オプション)

一人ひとりの子どもたちに紙を一枚渡します。紙の両端を内側に折り込んで、観音開きのような形を作らせます (両端は門のように開くように作らせます)。内側にイエスさまと群衆が家の中にある絵を描かせます。外側 (内側に折る部分の外側) には、歩けない人とその友人たちが屋根にいるところを描かせます。これを家に持ち帰らせ、家族に今日の聖書物語について語るように勧めましょう。

♥ テーマ： 親切な心

子どもたちに説明しましょう。親切とは、誰かをを気にかけているということ、示すことです。そして伝えましょう。イエスさまは様々な形で、周りの人々に親切になさいました。この物語の中では、多くの人々を教えたり病気を治したりしています。その結果、この歩けなかった人も含め、誰もがイエスさまを見たいと思っていたとあります。子どもたちにさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- ・ これまで、周りの人々からどんな風に親切にしてもらってきましたか。(様々な答えがあるでしょう)
- ・ 神さまはこれまで、あなたにどんな風に親切にしてくださっていますか。
(答えの一例：自分を大切にしてくれる人々を与えてくださっている、イエスさまを送って助けてくださっている、神さまについてさらに学ぶことのできる機会を与えてくださっている)
- ・ 他の人々に親切にするのが大切なのはなぜですか。(答えの一例：誰もが神さまに創られ、大切にされているから。誰もが価値ある大切な人だから)
- ・ 他の人々に親切にするのに、具体的な方法を挙げてみましょう。(様々な答えがあるでしょう)



みんなとつ ながろう：

子どもたちに説明しましょう。他の人々に親切にする方法の一つは、裏切らないということです。つまり、信頼できる人であるということです。約束はきちんと守るということです。自分自身が周りの人々に信頼されていると思うかどうか、子どもたちに聞いてみましょう。そして説明しましょう。イエスさまは、ご自分の行動を通して、神さまが信じるにふさわしい方であることを、示してくださいました。そして子どもたちを励ましてみましょう。約束を守り続けられれば、他の人々から信頼してもらえ人になれるのです。

締めくくり：

子どもたちに伝えましょう。神さまは私たちに、ご自分のことを知って欲しい、信じて欲しい、信頼して欲しいと願っておられます。神さまは私たちに、イエスさまという贈り物をくださいました。さらに説明しましょう。イエスさまはただ単に、奇跡を行なったり、罪を赦したり、病気の人たちを治したりして、人々を助けただけではありませんでした。イエスさまは、自分にはできると言っておられたことを、実際に行うだけの力をお持ちでした。それによって、ご自分が信じるにふさわしい方であることを、示してくださいました。

祈り： (2分)

「主よ、

あなたには私たちの病気を治せる力、心の中の罪を赦せる力があります。ありがとうございます。あなたのことをもっと知っていく中で、私たちの信仰も強くなっていきますように。

アーメン」

メモ





すべてがおわった

十字架にかかるイエス ヨハネ18:28-19:42、ルカ23:34-35

テーマ：感謝する心

目標：

この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのことがわかるようになります。

- 私たちの罪のためには、つぐないがされなければなりません。
- イエスさまが、私たちの罪のためのいけにえとして、進んで十字架の上で死んでくださったということ。
- イエスさまが死んでくださったのは、私たちを愛してくださっているためだということ。

用意するもの：

- 「すべてがおわった」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（21-24ページ）を用意しよう。
- ボール（投げやすいもの）
- 赤い紙で作った大きなハート（子どもたち一人ひとりに一つずつ）



ようこそ：

(5分)

子どもたちを歓迎し、神さまとそのみことば、聖書について学びに来てくれたことをどれほど感謝しているかを伝えましょう。そして説明しましょう。これから誰かに、ボールをパスします。受け取った子は、感謝していることを何か一つみんなに語り、まだ当たっていない子にパスします。全員に番がまわるまで続けます。



復習：

(5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- イエスさまはその言葉と行いを通じて、ご自分がどんな方だとお示しになりましたか。（答え：神さま）
- イエスさまはそれを、どのようにお示しになりましたか。（答え：奇跡を行い、歩けなかった人の罪をお赦しになった。そしてその人を治された）
- 神さまを信じるということは、どういうことですか。（答え：神さまに信頼するということ。神さまがその言葉を必ず行動に移されるのを知っている、ということ）



神さまのさらに大きな物語：

私たちは心の中に罪がありますから、いつかはみんな必ず死にます。ところが、イエスさまは、進んで十字架の上で死んでくださいました。それは、罪のために死ななければならない私たちのための、いけにえとなるためでした。イエスさまは完全な生涯を送りました。罪は一つもありませんでした。死ななければならない理由は、ご自分には何もありませんでした。ただ、私たちを愛してくださっていたために、私たちの身代わりとして死んでくださったのです。それは私たちが自分で直すことのできない、罪の問題を解決してくださるためでした。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（21-24ページ）で「すべてがおわった」を見せます。



考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ **ピラトに王さまになりたいのかと聞かれたイエスさまは、何と言いましたか。** (答え：私は王ですが、この世界の王ではありません)
- ★ **ピラトはイエスさまについて何と言いましたか。** (答え：イエスさまは悪くない。殺す理由がない)
- ★ **イエスさまを殺したかったのは誰ですか。** (答え：イエスさまの教えや奇跡を信じていない人々、集まった人々)
- ★ **イエスさまが釘づけにされたのはどこですか。** (答え：十字架)
- ★ **十字架の上でのイエスさまの最後の言葉は何でしたか。** (答え：「すべてがおわった」)

子どもたちに、前回のレッスンで学んだことを思い出してもらいましょう。イエスさまが、神さまの完全な力を持っていることをお示しになった、ということでした。つまりイエスさまは、ご自分を救うこともできたのです。十字架で死ぬ必要などなかったのです。ここで説明しましょう。イエスさまは、手足に打たれた釘のせいで動けなかったのではありません。イエスさまを十字架の上に留めたのは、私たちに対する愛でした。私たち一人ひとりへの愛から、イエスさまは進んで死んでくださったのです。

子どもたちに、ピラトの言葉を思い起こしてもらいましょう。「この男は悪くない。殺す理由がない」 イエスさまには、殺されなければならない理由などありませんでした。私たちの罪のために必要な犠牲を、進んで払ってくださったのです。

暗唱聖句：

しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが (天を指さす) 私たちのために死んでくださったことにより、神は (天を指さす) 私たちに対するご自身の愛を (両腕を、抱擁するように自分の体の周りに) 明らかにしておられます。ローマ5:8



アクティビティ：

イー：

(10分)

壁沿いでもそうでなくても、子どもたちを横向きに一列に並べさせます。その列から、子どもの歩幅で10歩ほどのところにゴールのラインを設定します。そして説明します。これから、合っているか間違っているかのクイズをします。合っていると思ったら片方の手を、間違っていると思ったら両方の手を挙げてもらいます。答えの正しかった子は大きく一步、前に進みます。間違った子は動かずそのままです。ゴールのラインに最初にたどり着いた子の勝ちです。クイズには次のようなものを用いるか、自分で新しい問いを作ってみましょう。

- **イエスさまは王さまですが、この世界の王様ではありません。** (答え：正しい)
- **イエスさまは死ななければならない悪い方でした。** (答え：間違い)
- **ピラトはイエスさまを殺したいと思っていました。** (答え：間違い)
- **イエスさまは金曜日に亡くなりました。** (答え：正しい)
- **イエスさまはご自分で、十字架を丘の上まで背負っていきました。** (答え：正しい)
- **十字架の上での最後の言葉は、「お父さま、彼らを赦してあげてください」でした。** (答え：間違い)
- **イエスさまは亡くなる前に、目を閉じて言いました。「すべてがおわった」** (答え：正しい)

工作：

(オプション)

子どもたち一人ひとりに、赤い紙のハートを渡します。それを、まずはびりびりに破ってもらい、パズルのように元に戻せるか試してもらいます。次に、新しい紙と糊を与えて、びりびりになったハートを糊で貼ってもらいます。ここで説明しましょう。罪が私たちの心にもたらすのは、そういうことです。罪は私たちを神さまから引き離してしまいます。神さまはきよい方で、罪と一緒にはいられないからです。さらに伝えましょう。びりびりになったハートは、二度と元通りには戻りません。ところが感謝なことに、イエスさまが死んでくださったおかげで、私たちの心は、罪から回復していただくことができるのです。また、今日の工作を家に持ち帰り、イエスさまがどのようにして、本当に大切なハート、すなわち私たち一人ひとりの中にある心を直してくださるか、伝えてみるよう勧めましょう。



♥ テーマ： 感謝する心

子どもたちに説明しましょう。感謝をするということは、何かのゆえに、あるいは何かについて喜ぶということです。ありがたく思うということです。子どもたちにさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- **あなたが感謝している人や物事には、どんな人やものがありますか。**（様々な答えがあるでしょう）
- **それらの人や物事に感謝しているのはなぜですか。**（様々な答えがあるでしょう）
- **私たちがイエスさまに感謝すべきなのはなぜですか。**（答えの一例：イエスさまが、私たちのために死んでくださったほどにまで、私たちのことを大切に思ってくくださったから）
- **他の人々に対する感謝を表すことのできる方法としては、具体的にどんな方法があるでしょうか。**（様々な答えがあるでしょう）
- **イエスさまに対する感謝の思いを神さまに表す方法としては、具体的にどんな方法があるでしょうか。**（答えの一例：私たちには、イエスさまを大切にする、教えと歩みに教わる、ルールに従う、などが選べる。お祈りの中でありがとうと言える）

👫 みんなとつ ながろう：

子どもたちに説明しましょう。感謝というのは単なる感情ではありません。私たちの行動や選択、言葉を通して示すことのできるものです。子どもたちに、誰か身の回りに具体的に、感謝している相手を思い描いてもらいます。そして、その人の役に立つためにはどうすればいいか考えてもらいます。どのようにすれば感謝の心を表すことができるでしょうか。次回のレッスンまでに何か一つ、具体的なことを行動に表してみるよう励ましましょう。（例えば、何か、頼まれる前にお手伝いをしてみるとか、「ありがとう」のカードを作るとか、その人と少し、特別な時間を過ごしてみるとか）

🤝 締めくくり：

子どもたちに思い起こしてもらいましょう。イエスさまは何も間違ったことはしなかったのに、進んで十字架で死んでくださいました。説明しましょう。イエスさまはご自分を救うこともできました。しかし、私たちを大切に思ってくださいるがゆえに、私たちの身代わりとして死んでくださったのです。

子どもたちに説明しましょう。神さまは正義と公平の方です。ですから、罪を見逃すことはできません。罪のあるところ、支払わなければならない負い目が生じます。そして、その負い目を、私たちが自分で取り除くことは絶対にできないのです。さらに伝えましょう。イエスさまはこの負い目を、十字架で私たちの身代わりとして死ぬことで取り除いてくださったのです。イエスさまが十字架で死ぬことは、私たちの罪の問題を解決しようとする、神さまのご計画の一部でした。これは、まさに大いに感謝すべきことです。

✝ 祈り： (2分)

「主よ、
私たちを心から大切にしてくださって、ありがとうございます。私たちの罪の負い目を取り除いてくださって、ありがとうございます。あなたは私たちに、本物の愛というものがどのようなものかを示してくださいました。あなたのみことばと愛とを、私たち自身の思いや言葉、行いの中で実践していくことができますよう助けてください。
アーメン」

メモ



からっぽのおはか

イエスの復活 マルコ16:1-4、マタイ28:5-8、
ヨハネ20:3-10、ルカ24:1-12、36-49

テーマ：赦しの心

目標：

この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのことがわかるようになります。

- 罪からは、支払わなければならない負い目が生じるということ。
- イエスさまが、十字架で亡くなった三日目に生き返ったこと。
- 赦しについて。

用意するもの：

- 「からっぽのおはか」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（25-28ページ）を用意しましょう。
- 何か重い物（既に部屋にある大きな机など）
- 紙
- 色の塗れるもの（クレヨン、色鉛筆など）



ようこそ： (5分)

子どもたちを歓迎しましょう。次に、この日は重い物を一つ持ち上げてもらいたいと伝えます。ボランティアを何人か募り、挑戦してもらいましょう。次に、それは重すぎて一人の力では持ち上げられないことを説明します。そして、これこそが、罪が私たち一人ひとりに生み出すものだと言います。どんな人にも、あまりに重すぎて自分では解決できない問題を生み出すのです。



復習： (5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- **イエスさまが十字架の上で亡くなったのは、当然のことでしたか。**（答え：いいえ。イエスさまは悪くはなかった。死ななければならない理由は無かった。罪を犯したことは一度もなかった）
- **イエスさまが自ら進んで十字架上で死なれたのはなぜですか。**（答え：私たちをととても大切に思ってくださっていたから。私たちの罪の問題を解決しようとする、神さまのご計画を、最後まで完成したいと思ってくださったから）



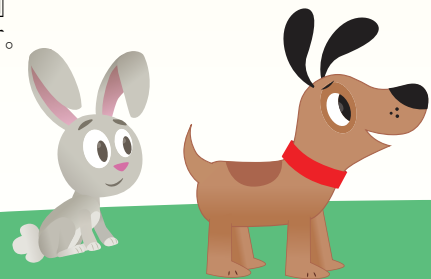
神さまの さらに大きな 物語：

イエスさまは、体は十字架の上で死にましたが、三日目に生き返りました。このことは、イエスさまが死というものに勝ったことを証明するものでした。私たちの身代わりとして死ぬことで、私たちの罪のためのいけにえとなってくださったのです。そして、生き返ったとき、ご自分に信頼して従ってくる人については誰でも、罪の負い目が完全に拭い去られたことを示してくださいました。罪が赦されるということは、誰もがいただける贈り物です。誰でも、神さまを信じる（神さまに信頼する）生き方を選ぶなら、これをただでいただくことができるのです。



今日の聖書 物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（25-28ページ）で「からっぽのおはか」を見せます。





考えてみよう：

(8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ 女の人たちがイエスさまのお墓に行ったのは何曜日でしたか。（答え：日曜日）
- ★ 女の人たちがやって来たとき、天使たちは何と言いましたか。（答え：「イエスさまは生きています。行って、弟子たちに伝えなさい」）
- ★ イエスさまのそれまでの教えの中で、この十字架と復活によってついに可能になったことは何ですか。（答え：誰でも神さまのもとに戻ってきてイエスさまに信頼するなら、罪が赦されるということ）

子どもたちに伝えましょう。イエスさまは、死ぬことで私たちの罪の問題を解決してくださいました。ご自分を犠牲にすることで、私たちのために完全な赦しを買い取ってくださったのです。私たちを深く愛してくださっているがゆえに、ご自分が与えることのできる最高の贈り物をくださったのです。このイエスさまの贈り物を受け取るには、ただ悔い改めることを選ぶだけです。悔い改めるということは、罪に対して「いいえ」、神さまに対して「はい」を選ぶということです。悔い改める時には、まず、赦してくださいと言いましょ。そしてイエスさまの贈り物をいただき、神さまに信頼すること、神さまに委ねることを選びましょう。

暗唱聖句：

「時が（時計をつける場所である手首を軽く叩く）満ち、神の国は近くなった（人差し指を空を指しているところから地面へ向けて動かす）。悔い改めて（両腕を体の前で内側から外側へと解き放つように）福音を信じなさい（胸の前で両手を握りしめる）」 マルコ1:15



アクティビティ：

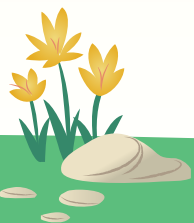
(10分)

子どもたちに説明しましょう。あなた（教師役）は、誰かこの物語の登場人物のふりをします。子どもたちはそれが誰かを当てます。子どもたちには、正解にたどり着けるよう質問をします。また、あなたに対しても、「はい」か「いいえ」でだけ答えられる簡単な質問をしてもらいましょう。何人かボランティアの子を募って実際に質問をしてもらい、それらに適切に答えます。いくつかやりとりをしたら、またボランティアを募り、あなたが誰だか考えてもらいます。ゲームの終わりには、この物語の登場人物が、イエスさまが実際に死ぬのと生き返ったのを目撃した、まさにそこにいた人々だったということを思い起こしてもらいましょう。

工作：

(オプショナル)

子どもたちに説明しましょう。この作業は家で一人でもらってもかまいません。子どもたちに、紙の真ん中に大きなハートを描いてもらいます。そして、自分が恥ずかしいと思っている言葉や行動を、言葉で書か、絵で描いてもらいます。そして、紙全体をくしゃくしゃに丸めて捨ててもらいます。次に、新しい紙を渡します。同じように真ん中に大きなハートを描いてもらいます。そして今度は、神さまに助けてもらいたいと思っている内容を書か、描いてもらいます。そして伝えます。イエスさまの赦しをいただいても、自分の罪を忘れてしまうことはないかもしれません。でも、恥ずかしさからは自由になることができます。イエスさまが既に私たちの負い目を拭い去ってくださったからです。神さまがいてくださるなら、私たちは新しい生命をいただくことができます。そして二度と、ひとりぼっちで生きていく必要はなくなるのです。



テーマ： 赦しの心

子どもたちに説明しましょう。赦すということは、誰かに対する否定的な何かを握りしめているのを、手放すということです。子どもたちに、誰かを傷つけてしまった時のことを静かに考えてみてもらいましょう。そのできごとの後、どんな風を感じたでしょうか。傷つけた相手は赦してくれたでしょうか。赦してもらったとき、どんな気持ちになったでしょうか。イエスさまからの赦しという贈り物を体験するのはどんなに素晴らしいことか、想像しててもらいましょう。子どもたちにさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- 赦しというのは、忘れるのと同じことでしょうか。同じならなぜでしょうか。違うならなぜでしょうか。（答えの一例：いいえ。赦すということは自分でそのように選択すること。私たちは自分の受けた傷を忘れることはまずできない。でも、誰かが犯した過ちを、赦そうと選ぶことはできる。神さまは私たちの心が変わるように助けてくださり、私たちの傷を治してくださる。私たちが引き続き誰かを傷つけ続けるかもしれないような時でも、心がかたくなにならないように助けてくださる）
- 人から傷つけられたり、嫌なことをされた時には、どのようにすれば赦しを表現することができるでしょうか。（様々な答えがあるでしょう）
- 私たちが罪の赦しを得られるよう、イエスさまは、私たちの負い目を拭い去るために何をしてくださりましたか。（答えの一例：ご自分は悪くなかったのに、進んで十字架で私たちのために死んでくださった）
- イエスさまが私たちの犠牲としてその務めを完全に果たしてくださったということは、どのように知ることができるでしょうか。（答えの一例：イエスさまは死んでも生き返った。イエスさまは言った。「神さまを信じれば罪が赦されるということ、みんなに教えなさい。私が行なったことによって、それができるようになったのです」）
- イエスさまが与えてくださる、罪の赦しは、あなたにも与えられているものですか。なぜ確かにそう言えますか。（答えの一例：はい。神さまのところに戻れば誰でも赦されると、イエスさまが言ってくださっているから）

みんなとつながろう：

子どもたちに説明しましょう。赦すことを選ぶということは、忘れるということでも、傷を無視するということでもありません。伝えましょう。人を赦すことを選ぶなら、それは、自分の心を直してくれるものにもなるのです。

子どもたちに聞きましょう。これまで、誰かに傷つけられたことはありますか。難しいかもしれませんが、その人のことを考えてもらいましょう。その人に赦しを示してあげられる具体的な方法があるかどうか、一人でそっと考えてみるよう勧めましょう。

締めくくり：

子どもたちに、イエスさまが私たちの罪の負い目のために支払ってくださったものの尊さについて、考えてもらいましょう。イエスさまは十字架に釘で打ちつけられたのです。しかし、イエスさまをそこに留ませたのは、私たちに対する愛でした。子どもたちに、誰か、イエスさまのこの赦しの贈り物を受け取りたい子はいないかたずねてみましょう。興味を示してくれた子には、次にある救いの短いお祈りを導いてあげましょう。

✠ 祈り： (2分)

「イエスさま、
私の罪のために身代わりとなってくださってありがとうございます。ぼくは／わたしは、あなたのプレゼントをいただきたいです。赦していただきたいです。あなたを愛して従っていきたいです。あなたの教えを、毎日の思いと行いの中に活かしていきたいです。どうか助けてください。
アーメン」





くもの中へ

天に帰るイエス マタイ28:18-20、使徒1:4-12

テーマ：与える心

目標：

この物語のレッスンの終わりには：

- この物語のレッスンの終わりには子どもたちはこれらのがわかるようになります。
- イエスさまが私たち全員を置き去りになさったわけではない、ということ。私たちを助けるために聖霊さまを送ってくださったこと。
- イエスさまが帰ってこられるまでの間、他の人たちに福音を語ることの大切さ。
- イエスさまがどのようにして天から帰ってこられるか。

用意するもの：

- 「くもの中へ」をタブレットかスマートフォンに読み込んでおくか、『こども聖書アプリブック』（29-32ページ）を用意しましょう。
- 紙
- 色の塗れるもの（クレヨン、色鉛筆など）



ようこそ： (5分)

子どもたちを歓迎しましょう。神さまとのみことばである聖書について、これまでさらに、一緒に学んできましたが、それがいかに素晴らしいことであるかを伝えます。良い知らせというのは、自然と他の人たちにも教えたいくなるものです。この場で周りの友だちと、これまでのアクティビティーやレッスンではどれが好みだったか分かち合ってもらいましょう。



復習： (5分)

前のレッスンの簡単な復習をしましょう。次のように聞きます。

- イエスさまのお墓に行った女の人たちは、どんなことに気づきましたか。（答え：イエスさまの体がそこになかったこと。イエスさまが生き返ったこと）
- イエスさまが目の前に現れたとき、弟子たちはどう思いましたか。（答え：幽霊だと思った）
- イエスさまのそれまでの教えの中で、この十字架と復活によって可能になったことは何ですか。（答え：誰でも神さまのもとに戻ってくるなら罪が赦されるということ）



神さまのさらに大きな物語：

十字架でのわざを最後まで終えたイエスさまは、天にお帰りになりました。しかし、私たちを置き去りにして行ってしまったわけではありません。ご自分が再び帰ってこられる時まで、聖霊さまという方を送ってくださったのです。そして、イエスさまが帰ってくるのを待つ間に大切なことは、イエスさまがくださった、赦しという良い知らせを、他の人たちに伝えることです。



今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』（29-32ページ）で「くもの中へ」を見せます。



考えてみよう： (8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。

- ★ イエスさまはお弟子さんたちをどこに連れて行きましたか。（答え：エルサレムの近くの山の上）

- ★ イエスさまはお弟子さんたちに何をしよう言いましたか。（答え：約束の聖霊を受けるまで、エルサレムで待っているように。そして、ご自分のことを全世界のみんなに伝えるように。人々に洗礼を受け、イエスさまに教わった全てのことを教えるように）
- ★ 天に昇って行く前に最後におっしゃったことは何ですか。（答え：「私はいつもあなたたちと一緒にいます」）
- ★ イエスさまはどのようにして天に戻っていきましたか。（答え：空に昇っていき、雲の中に消えてしまった）
- ★ イエスさまが行ってしまった後、お弟子さんたちの前には誰が現れましたか。（答え：白い衣を着た二人の天使）
- ★ 二人の天使はお弟子さんたちに何を伝えましたか。（答え：イエスさまが同じ姿で帰ってこられること）

子どもたちに説明しましょう。天に戻っていくとき、イエスさまは、決して私たちを置き去りにするわけではないと言いました。イエスさまは二つの贈り物をくださいました。私たちを助けるためにご自分の聖霊さまをくださるとともに、いつかまた地上に帰ってくるという約束をくださったのです。

伝えましょう。神の聖霊さまは、イエスさまからの赦しの贈り物をいただいた人々の心に住まわれます。これは、何かや来て来て心臓に住みつくとという意味ではありません。神さまがご自分の霊を送ってくださって、私たちの思いや感情の一部にしてくださいということなのです。聖霊さまは、私たちが何かを決める時に、助けて導いてくださいます。私たちはこの聖霊さまに耳を傾け、学び、その指示に従うのです。

“ 暗唱聖句：

神は（天を指さす）、実に、そのひとり子を（人差し指一本で）お与えになったほどに、世を愛された（腕を胸の前で重ね合わせる。右手は左の、左手は右の、それぞれ上腕部に）。それは御子を（天を指さす）信じる者が、ひとりとして（一人ひとりを指さす）滅びることなく（首を振る）、永遠のいのちを持つためである（両手を天に向けて伸ばす）。

ヨハネ3:16



アクティビティー： (10分)

部屋の角のうち二つを選びます。一つの角を「正しい」、もう一つを「間違い」と名づけます。次に、今日の物語についての質問をし、子どもたちにはそれぞれ、答えとして正しいと思うほうに移動してもらいます。次のような質問が考えられます。

- イエスさまが天に戻るのを見た人は、誰もいません。（答え：間違い。お弟子さんたちが目撃した）
- イエスさまは、ご自分のことをあらゆる人々に伝えなさいと言いました。（答え：正しい）
- イエスさまは将来、再び地上に戻ってこられます。（答え：正しい）
- イエスさまはお弟子さんたちと私たちを置き去りにしました。（答え：間違い。私たちを助けるために神さまの聖霊さまを送ってくださった）
- イエスさまは、天に帰って行かれたのと同じ姿で帰ってこられます。（答え：正しい）



工作： (オプション)

イエスさまはもう、手で触れる姿ではこの地上におられません。しかし、やがて帰ってくる
と約束してくださいました。その日まで私たちは、イエスさまがしなさいと言ったことに従
わなければなりません。そこには、イエスさまや神さまの愛について人々に伝える、という
ことが含まれています。どうすれば赦されるかについても伝えます。そこで、イエスさまに
ついての良い知らせを伝えるためのポスターを作ってもらいましょう。そして、それを、誰
か大好きな人、でもイエスさまのことをまだ知らない人にあげるよう勧めます。

テーマ： 与える心

子どもたちに説明しましょう。もし気前がいい与える心を持っていると、ためらわず人にあ
げることをします。持っているものを他の人々と分かち合うということです。説明しましょ
う。私たちは食べ物や服など、手で触れる物も与えることができますが、時間や能力、才能
など、物でないものも分かち合うことができます。子どもたちにさらに考えてもらいましょ
う。次のように聞いてみます。

- 誰かが気前よく与えてしてくれた時のことを考えてみましょう。その人は何を
(して) くれましたか。あなたはどんな気分でしたか。(様々な答えがあるでしょう)
- 自分が誰かに気前よくしてあげた時のことを考えてみましょう。誰に何を(して) あげ
ましたか。(様々な答えがあるでしょう)
- 神さまが私たちに気前よくくださった形としては、具体的にどのようなものがある
でしょうか。(答えの一例：私たちを愛してください、唯一のひとり子イエスさまを
与えてくださった。また聖霊さまを送ってください、私たちを助け、導く方としてくだ
された)

みんなとつ ながろう：

イエスさまは、私たちの罪をつぐなうために、ご自分の命を与えてくださいました。これは
究極の気前のよさを示すものです。そして、イエスさまは今、今度は私たちに気前よく与
える心をもってほしいと思っています。つまり、この素晴らしい知らせを他の人々と分かち合
い、それらの人々もまた、その贈り物を受け取ってくれるようにということなのです。子ど
もたちの友だちや家族は、イエスさまのことを知っているでしょうか。どうすればその赦し
をいただくことができるか知っているでしょうか。子どもたちに、福音を他の人々に伝える
具体的な方法について考えてもらいましょう。同時に、子どもたち自身が気前のよさを示す
ことでイエスさまの愛を示すことのできるような方法についても、考えてもらいましょう。

締めくくり：

子どもたちに説明しましょう。イエスさまはもはや、手で触れる形ではこの地上におられま
せん。しかし、私たちは、見捨てられたわけではありません。イエスさまは、私たち一人ひ
とりを深く愛して下さっていて、私たちを見捨てることなどできないのです。子どもたち
に伝えましょう。この地上を去るとき、イエスさまは神さまの聖霊さまを送ってくださ
いました。そして、ご自分を信じる一人ひとりを助け、導くようにしてくださいました。説明
しましょう。私たちにはまた、神の言葉である聖書があります。聖書は、神さまのことや、私
たちみんなのための、神さまの大きな物語、イエスさまの模範にいかに従うかについて、私
たちがさらに学んでいくのに助けとなってくれます。説明しましょう。聖書は単なる本では
ありません。聖書は、多くの物語が集められたもので、それらの物語は互いに組み合わされ
て、神さまのさらに大きな物語を語ってくれています。神さまが私たちみんなを愛してくだ
さっているという物語です。

✠ 祈り： (2分)

「神さま、

あなたの惜しみなく与える心は、その大きさを測ることができません。
私たちへのあなたの愛には、終わりがありません。あなたの素晴らしい
物語の一部にさせていただいていることを、ありがとうございます。私
たちはただ、へりくだり、赦しという、あなたの素晴らしい贈り物をいた
だくだけです。イエスさまの十字架でのみわざという良い知らせについ
て、どうすれば人々と分かち合っていけるか、人々があなたの愛を知れ
るか、私たちを教え、導いてください。

アーメン」

カスタマイズ用のレッスン： はじめに

カスタマイズ用のレッスンには、これまでの他のレッスン同様、同じセクションが設定してあり、同じパターンに従うものとなっています。そして、『こども聖書アプリ』に含まれている、他の物語と併用できるようになっています。

「ようこそ」と「アクティビティー」では、具体例をいくつか含めていますので、ご自分のグループや、その回の聖書物語に合わせて、最も適切なものを選ぶか、新しいものを考えるようにしてください。

ご自分のアイデアを自由に用いるようにしてください。神さまは私たち全員に、特別な賜物や才能を与えてくださっています。あなたも同じです。ご自分のアイデアを、加えたり入れ替えたりして、担当の子どもたちに神さまの愛のメッセージが一番よく伝わるようにしてください。





カスタマイズ用のレッスン

テーマ： _____

目標：

この物語のレッスンの終わりには：

- 子どもたちは、神のみことばに含まれる具体的な物語について、知識を得るようになります。
- 物語の詳細を思い出し、自分として意味のある形で応答できるようになります。

用意するもの：

- 『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』からの特定の物語。
- 色の塗れるもの（クレヨン、色鉛筆など）
- 紙
- 聖書



ようこそ：

(5分)

子どもたちを歓迎し、次のアクティビティーの中から一つを使ってレッスンに招き入れましょう。ご自分で何か考えてくださってもかまいません。

ユニークなきみ

子どもたちに二列に並んでもらいます。一人ひとりがいかに素晴らしく、また、他のみんなと違うかを強調します。また、一人ひとりが神さまによって、かけがえのない存在として造られ、深く愛されていることを説明しましょう。そして伝えます。神のみことばである聖書をしっかりと読めば、私たちへの神さまの愛について学ぶことができます。また、神さまをどうすればもっと知ることができ、もっと愛することができるかを知ることができます。

神さまの素晴らしい贈り物

子どもたちに、目を閉じて、きれいに包まれたプレゼントを想像してもらいます。そして、中に何が入っていると思うかたずねます。この想像上のプレゼントを、振ってみるふりもしてもらいましょう。次に目を開けてもらい、みんなが見えるように聖書を高く掲げます。そして伝えましょう。神さまのみことばである聖書は、神さまから私たち一人ひとりへのプレゼントです。聖書を読めば神さまについてもっと知ることができます。また、私たちへの神さまの愛、そして、神さまの究極の贈り物である御子イエスさまについても、知ることができるのです。

互いに知り合う

子どもたちに、あなたについて質問してもらい、あなたのことをもっと知ってもらいましょう。例えば、次のような質問が考えられます。

- 兄弟や姉妹はいますか。
- 学校に行っていた頃、好きな科目は何でしたか。
- 好きな食べ物は何ですか。

時間の許す限り、子どもたちに質問をしてもらい、その質問に答えます。そして、誰かのことを知ろうと思ったら時間と労力が必要なのだと説明しましょう。そして、神さまも同じだと伝えます。説明しましょう。神さまのことをもっと知りたいと思ったら、そのみことばである聖書を読むことに時間を掛けなければなりません。また伝えましょう。お祈りをして神さまに語りかけることで、神さまと時間が過ぎずこともできるのです。



神さまのさらに大きな物語：

子どもたちに説明しましょう。聖書は単なる本ではありません。多くの物語が集められたものです。それらの物語は互いに結び合わされて、神さまのさらに大きな物語を語ってくれています。すなわち、神さまが私たちみんなを愛してくださっているということです。また、伝えましょう。神のみことばである聖書についてもっと学ぶには、たくさん方法があります。例えば、本で読むこともできますし、『こども聖書アプリ』のようなアプリを通して学ぶことができます。

今日の聖書物語：

『こども聖書アプリ』か『こども聖書アプリブック』で、
_____を見せます。

考えてみよう： (8分)

子どもたちにこの物語についてさらによく考えてもらいます。次のように聞いてみましょう。考える時間も与えましょう。そして、ボランティアを募り、答えを声に出して言ってもらいます。

- ★ この物語のおもな登場人物は誰でしたか。
- ★ この物語では、神さまの愛はどのように示されていましたか。
- ★ この物語では、神さまの力はどのように示されていましたか。
- ★ 登場人物はどのように応答していましたか。
- ★ あなた（たち）がこの物語に登場していれば、どのように応答したでしょうか。
- ★ この物語は、神さまについて何を語っているでしょうか。
- ★ この物語は、人々について何を語っているでしょうか。

子どもたちに思い起こしてもらいましょう。神さまは私たちの誰からも、決して遠くに離れた方ではありません。ご自分のことを私たちに知ってもらいたい、愛してもらいたいと思っておられるのです。神さまを知るということは、誰かを知るということに似ています。私たちは神さまをもっと知る必要があります。そしてそのためには神さまと時間を過ごす必要があります。説明しましょう。神さまを知るには、祈りの中で語りかけること、日々、神さまと共に歩むことが必要です。また、神さまを愛する人々、神さまに従う人々と時を過ごし、神のみことばである聖書についてもっと学ぶ必要があります。

今日の_____という聖書物語では、特に_____について学びました。

暗唱聖句：

暗唱聖句は、その日の聖書物語に特に関連した箇所を選びましょう。手や体の簡単な動きを考えて利用し、その聖句が子どもたちの日々の歩みに生きたものとなるよう手助けしましょう。

アクティビティ： (10分)

次のアクティビティの中から一つを選びましょう。新しいものを作ってくださいてもかまいません。

大切にされ、大切にされる

子どもたちに、誰かから大切にされている、愛されていると感じた時のことを思い出してもらいます。その時にどんなことがあったか、それでどんな気持ちになったかを考えてもらいましょう。次に、一枚の紙を半分に折ってもらいます。一方にはこの思い出について絵を描いてもらいます。もう一方には誰かに同じような愛情を示すにはどうすればいいかのアイデアを、同じく絵で描いてもらいます。

クールなカード

子どもたちに目を閉じてもらい、最近、誰かがしてくれた、何か良いことを思い浮かべてもらいます。次に、一枚の紙を半分に折って、カードを作ってもらいます。カードに飾りを施し、その人へのカードにしようのです。できれば、内側に、子ども自身の言葉で感謝の言葉を書かせましょう。そして、神さまが人に対する愛を示してくださる方法の一つには、その歩みの中に誰か、その人を愛してくれる、教えてくれる、大切にしてくれる人々を置くという方法もあるのだと説明します。



この人、どんな人？

物語の詳細を用い、子どもたちに主役たちについての予告のようなものを示します。次に、この主役たちが、何年も前にはどのような風貌だったか、絵を描いてもらいます。時間が許せば、ボランティアを募り、それぞれの絵を全体に紹介してもらいましょう。

神さまをもっと知る

最初にボランティアを募り、神さまについて知っていることを話してもらいます（これまでに学んだ物語を思い出させて、話が活発になるようにします）。そして、紙の片側一面に、それぞれ神さまについて知っていることを、言葉や絵にしてもらいます。次に、神さまについて何か知りたいことがあるかどうか考えてもらいます（また、時間が許せば話してもらいます）。そして、紙を裏返し、それらを同様に、言葉や絵にしてもらいます。

♥ テーマ (とりあげる性質)

レッスンで取り上げられる物語の中で、テーマとなり得る性質として具体的にどのようなものが見られるか、それが物語とどのように関連しているかを細かく書き表します。この性質については、子どもたちにさらに考えてもらいましょう。次のように聞いてみます。

- テーマとなるこの性質について、他の人の中にそれを見たことはありますか。具体的に、どのような時にそれが見えましたか。（様々な答えがあるでしょう）
- 物語の登場人物に誰か、その性質を見せている人はありましたか。もしあったなら、どの場面のどんな言葉や態度、行いにそれが見えましたか。（様々な答えがあるでしょう）
- 自分自身の歩みの中にこの性質が現れてくるようにするためには、具体的にどんなことをすればいいでしょうか。（様々な答えがあるでしょう）

👫 みんなとつ ながろう：

子どもたちに、このレッスンでテーマとなった性質を、自分自身の歩みの中で育んでいけるよう励ましましょう。そして、そのことが他の人々の益となっていけるような具体的な方法も、考えてもらいましょう。

🤝 締めくくり：

子どもたちに思い起こしてもらいましょう。神のみことばである聖書こそ、神さまが今日、私たちとコミュニケーションを取ってくださる、とても大切な手段です。聖書、そしてそこにある物語はどれも、つまるところ、私たちに対する神さまの愛という、一つの大きな物語になっています。そして、話を熱心に聴いてくれたこと、レッスンに参加してくれたことを感謝しましょう。

✝ 祈り： (2分)

「神さま、
今日のこの機会をありがとうございます。今日もあなたについて、私たちへのあなたの素晴らしい愛について、そしてみことばである聖書について、さらに学ぶことができました。今日も、学んだことを日々の歩みに活かせるように助けてください。そして、周りの人々とも、あなたの愛の良い知らせを分かち合っていくことができるように助けてください。私たちの行動によって、周りの人々も、あなたのことをもっと知りたいと思っていけるようにしてください。
アーメン。



『こども聖書アプリ』プログラムのために準備をする

あなたの地域の子どもたちに福音を届けるのに、この『こども聖書アプリ』プログラムを使うことにしてください、ありがとうございます。プログラムを始めるにあたり、アドバイスを少しご用意しました。ご参考になれば幸いです。

1. 準備にあたっては、祈りの中で知恵と導きを求めます。
2. 一緒に働いてくれるスタッフのために祈ります。
3. このプログラムに出席してくれる子どもたちのために祈ります。
4. 日時を決めます。
5. 子どもたちが集まりやすい場所を選びます。
6. 責任感が強く、時間的に都合がついて、こちらの指示によく従ってくれるボランティアを募り、アシスタントになってもらいます。
7. 教会や近隣の学校、地域などで宣伝をします。
8. プログラムの終わりには伝道的なイベントを計画します。これは、子どもたちの家族や友だちと知り合う機会になりますし、子どもたちに、どんなことを学んだかを他の人々に語ってもらう機会にもなります。

レッスンの準備

各レッスンの準備は、次のチェックリストを確認しながら行います。

- 当日のレッスンとこのプログラムに出席してくれている子どもたちのために祈ります。
- レッスンを読みます。
- 目標を理解します。
- その日の物語をタブレットやスマートフォンに読み込み、きちんと動作するか確認します。
- 教材や活動に必要なものを全て集めて準備します。
- 暗唱聖句については、手の動きなどを練習し、自分もきちんと暗唱しておきます。
- アシスタントには、果たしていただくべき責任を割り当てておきます。
- 会場には早めに到着し、セッティングをして、子どもたちを迎える準備を整えます。

教える時のコツ

- タブレットやスマートフォンで物語を見せる際には、見えていない子どもたちがいないように確認します。
- スクリーンにも順番に触れさせ、アプリ上のインタラクティブな動きを楽しんでもらう機会を与えます。
- 子どもの数が多い時や、年齢層が異なる際には、小グループに分けることを考えましょう。そして、保護者やボランティアを募り、「考えましょう」「暗唱聖句」「アクティビティー」のコーナーで助けてもらうようにします。
- レッソンはスムーズに流れるようにします。小さな子どもたちは、大きな子どもたちよりも集中力が続きません。
- 子どもたちは、見たものなら30%、自分で言ったことなら70%、実際に行なったことなら90%を覚えています。いろいろな教え方を取り込めば、子どもたちが覚えていられる期間を延ばすことができます。
- 子どもたちには、レッスンで学んだことを家でも話してみるよう勧めましょう。保護者の方々が『こども聖書アプリ』をダウンロードしてくださるなら、お子さんと一緒に楽しんでいただくことができます。



『リーダー・ガイド』を利用する際に

あなたは、この『リーダー・ガイド』はどうすればきちんと活かすことができるのか、あるいは、地域で『こども聖書アプリ』教師訓練を開催するにはどんな準備をすればいいのか、少し迷っておられるかもしれません。心配は無用です。必要なことは、これ以降のページに全て書かれています。

各レッスンにはどんなことが書かれているのですか？

各レッスンはいくつかのセクションに分かれています。

目標	このセクションには、各レッスンの目標が具体的かつ詳細に書かれており、レッスンの結果として、子どもたちが何を学ぶべきかが説明されています。
用意するもの	ここには、レッスンを最後まで行うために必要なものが全て書かれています。
 ようこそ	子どもたちを歓迎し、レッスンにスムーズに導き入れるための楽しいアクティビティです。
 復習	どもたちに、前回のレッスンで学んだことを思い出してもらえよう、短い質問をいくつか用意しています。
 神さまのさらに大きな物語	それぞれの聖書物語が、神さまのさらに大きな物語の一部であると同様に、それぞれのレッスンが、神さまの素晴らしいご計画とどのように関連しているのかを、簡単に説明しています。
 今日の聖書物語	『こども聖書アプリ』は、アニメ効果により物語を生き生きとしたものにします。
 考えてみよう	子どもたちが重要な事実を思い出し、物語がどのように適用できるか考える手助けとして、質問が注意深くデザインされています。
 暗唱聖句	暗唱聖句は、各レッスンに対して個別に選ばれており、一人ひとりの子どもに対して、神のみことばを心に蓄えてもらうようにするものです。
 アクティビティ	子どもたちに神のみことばに積極的に向き合ってもらうための、楽しく意義深い方法です。
 他のアクティビティ	オプションとしてのさらに別のアクティビティです。出席している子どもたちのニーズに最も適したアクティビティを選ぶか、時間が許せば、二つを両方します。
 テーマ	各レッスンは、人としての性質の中から一つを取り上げてデザインされています。子どもたちは、そもそも人にどんな性質があるか学んでいくとともに、それらがどのように表に現れてくるのか、自分の行動や選択を導くのにどのように用いられるのかを学んでいきます。
 みんなとつながろう	子どもたちに、その日のレッスンで学んだことを吸収し、日々の人間関係の中で実践に移していくよう励ますことによって、他の人々と積極的かつ意図的な形で関わるよう招くものです。
 締めくくり	このセクションは、レッスン全体を簡潔に要約するとともに、子どもたちにそのレッスンから何を学ぶべきかを思い起こさせるものです。
 祈り	ここに挙げてある祈りを通し、神さまに語りかけることでレッスンを終わります。各レッスンの終わりに具体的な祈り方の見本を示すことで、子どもたちは反復を通し、感謝と謙遜、誠実さを抱きつつ、神さまにどのように近づけばいいかを学んでいきます。

教師訓練のプロセス

もしも教師研修を計画しているようでしたら、次の簡単なプロセスを参考にしてください。セクションごとの時間の割り当ての目安もつけています。

リーダー・ガイドを紹介する (10分)

- リーダー・ガイドを配布します。
- 参加者に3-5分間、ガイドに目を通してもらいます。
- 何人かの参加者に、何に関心を惹かれたか語ってもらいます。
- 3ページの「ようこそ」を開き、プログラムの結果として想定されることについて、話し合ってもらいます。
 - 神さまが、子どもたちを深く、無条件に愛しておられるということ。
 - 神さまが、子どもたちを決して見捨てることのない、お父さんのような方であるということ。
 - 子どもたちが、それぞれが目的を持って創られた存在であり、それぞれに能力や才能が与えられているということ。
 - 子どもたちにはとても大きな価値があるということ。

各レッスンの内容 (20分)

- 34ページにある、レッスンの各セクションについての説明を学びます。

子どもたちを教える時のコツ (20分)

まず、いくつか聞いてみます。

- 子どもにとってレッスンを楽しいものにするために、考えられる方法がいくつかあるでしょうか。
- 子どもたちが学ぶ方法として、何か他のものはないでしょうか。
- 33ページの「教える時のコツ」も学んでみます。

休憩 (10分)

模擬レッスン (60分)

研修の参加者にとって、練習と応用はとても重要です。参加者の皆さんに見せるためにレッスンを一つ選び、準備をしておきます。皆さんにはレッスンに参加してもらい、4-9歳の子どもたちのようにふるまってもらいます。

模擬レッスンの後、次のような質問を用いて、どうだったか振り返ってもらいます。

- レッソンは楽しめましたか。
- 最も記憶に残っていることは何ですか。
- 画面が見えなかった人はいませんでしたか。
- レッソンの目標を振り返りましょう。きちんと達成できましたか。
- このレッスンを教える中で、最も難しい部分に思えたのは何ですか。
- レッソンを教えてみることに、何か質問はありませんか。





こども聖書アプリ

このリーダー・ガイドの中で触れている物語は、『こども聖書アプリ』に含まれているものです。

iOSとAndroidのデバイスには、bible.com/kids から無料でダウンロードできます。保護者と教師の方々にはさらに多くの無料の教材が用意されています。BibleAppForKids.com をチェックしてみてください。

